

テーマ：景気動向指数（2016年10月）

発表日：2016年12月7日（水）

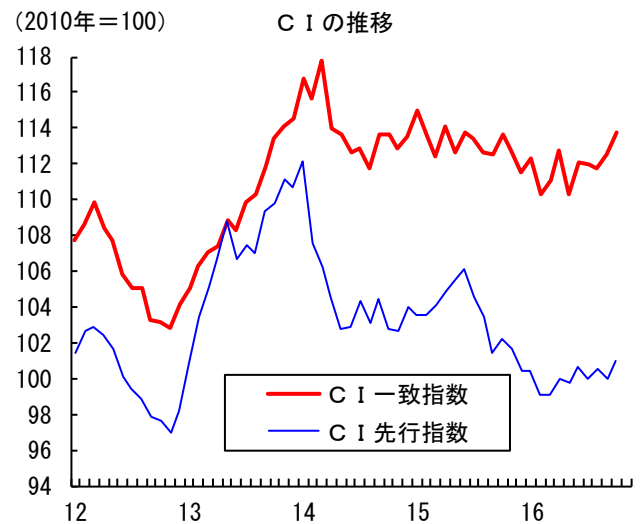
～基調判断が「改善」に上方修正。景気持ち直しの動きを確認～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ C I一致指数に持ち直しの動き

内閣府から公表された2016年10月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差+1.4ポイントとなった。9月の+0.8ポイントに続いて2ヶ月連続の上昇であり、上昇幅も比較的大きい。10月の内訳では、耐久消費財出荷指数や生産財出荷指数、投資財出荷指数など、出荷関連指標が好調でC Iの押し上げ要因になっている。

また、10月のC I先行指数も前月差+1.0ポイントと上昇している。先行C Iは昨年夏以降、大幅に低下していたが、16年2～3月を底として、足元では緩やかに持ち直しつつある。C I一致指数、先行指数とも持ち直しの動きとなっていることは、景気にとって明るい材料といえるだろう。10月の内訳では、消費者態度指数がマイナス寄与になる一方、最終需要財在庫率指数や日経商品指数、中小企業売上見通しD Iなどが押し上げ、C I先行指数全体としては改善する形になっている。



(出所)内閣府「景気動向指数」

○ 基調判断が上方修正。15年4月以来の「改善」が実現

内閣府によるC I一致指数の基調判断は「改善を示している」となり、これまでの「足踏みを示している」から上方修正された。C I一致指数の3ヶ月後方移動平均前月差が8月に+0.46、9月に+0.14、10月に+0.63となり、上方修正の基準である「原則として3か月以上連続して、3か月後方移動平均が上昇」かつ「当月の前月差がプラス」を満たしたためである。

「足踏み」判断は2015年5月以降、17ヶ月にわたって続いてきたが、ようやく上方修正された。「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」、「改善」の定義は「景気拡張の可能性が高いことを示す」であるため、景気が長らく続いた踊り場から脱却し、持ち直し軌道に乗っていることが、C I一致指数からも確認されたことになる。

先行きについても、強い生産予測指数から判断して10-12月期も生産の回復が見込めること、C I先行指数が持ち直していること、17年には経済対策効果の顕在化が期待できること、などの好材料がある。景気は先行き緩やかな回復傾向で推移する可能性が高いと予想する。